

わが市わが町 「小田原市」

～小田原市の森林・林業木材産業に関わる

取り組みについて～

小田原市は、中央を酒匂川が南北に流れて足柄平野を形成し、南西部は箱根外輪山につながる森林地帯が占めており、東部は曾我丘陵と呼ばれる丘陵地帯となっています。

市域は11,406ha、このうち森林面積は約4,200ヘクタール（約37%）です。スギ、ヒノキを中心とした人工林面積は2,840ha（人工林率67%）となっております。人工林の年齢構成をみると9年齢以上の林分が面積の85%を占め、まさに伐期を迎えている森林が多くを占めています。

一方で、昨今の外材の普及による材木価格の低迷や、森林所有者の高齢化・担い手不足等により、本市においても林業や木材産業は低迷し、手入れ不足の人工林が多く残っています。

そこで本市では、一昨年に「おだわら森林・林業・木材産業再生協議会」（木平勇吉会長）を立ち上げ、素材生産業者、製材業、建築業などが連携し、森林・林業再生に向けた体制づくりを整えました。



木はがき「森からの手紙」

こうした取り組みを広く周知する中で、市内郵便局と木材産業、木地師、障がい者施設等が連携し、間伐材を使用した「木はがき」が商品化されました。今では県西55局の郵便局で販売され、3000個を超えるヒット商品となったことで、小田原の森林・林業再生に向けたPRに大きく寄与しています。



バンガロー建設プロジェクトの様子



バンガロー（板倉工法モデル）

また昨年度、間伐材の利用促進や地場産の住宅づくりを推進するため、いこいの森にバンガローを建設しました。建設にあたっては、地域の職人や技術者、学生などが連携してプロジェクトチームを組み、打合せを重ねながら設計施工することで、「官」が中心ではない、「民」の力でプロジェクトが進められました。全5棟は様々なコンセプトで設計されており、伝統（板倉）工法モデル、

仮設住宅モデル、郷土の住宅を意識したモデル、小径木の利活用や木組みをコンセプトとして取り入れた一般公募モデルなどがあります。

今後、利用者からのアンケートや、耐久性などを検証しながら、地場産木材を活用した住宅建設を目指すための取り組みを進めていきたいと考えています。

木材利用の拡大に向けた取組とあわせて、将来を担う子供たちを対象に、森林や林業、木材産業に関心を持ってもらうための「木育」も推進しています。昨年は、「親子木育キャンプ」をはじめ、小学校での授業、地元木材業協同組合の若手組織「小田原林青会」と連携した木工工作教室などの取り組みなどを行いました。



小学校での木育授業

今後も親子で森や木を好きになってもらい、森の大切さと併せて林業についても理解してもらうことで、地元産木材の消費拡大につながっていくのではないかと考えています。

（小田原市農政課農林業振興係

松山 成二）